

市指定

安藤広近の絵馬「神功皇后遠征図」

じんぐうこうごうえんせいず

- 所在地：大鳥居929  
(市郷土博物館保管)
- 所有者：大鳥居区



浮世絵師二代目安藤広近晩年の肉筆による大絵馬で、制作時期は「山伏図」と同じ頃と思われます。内容は、神功皇后が朝鮮半島へ遠征したという神話を題材としています。二代目安藤広近は、俗名が吉、号を一親齋と称して安政7年(1860)から明治期にかけて版画をのこしていますが、のちに肉筆画を中心とした作品を手掛けるようになります。これらの絵馬は、二代目広近の最晩年の作品と考えられます。

大鳥居区にある薬師堂に奉納された絵馬で大きさは、横2.8m 縦0.91mを測ります。



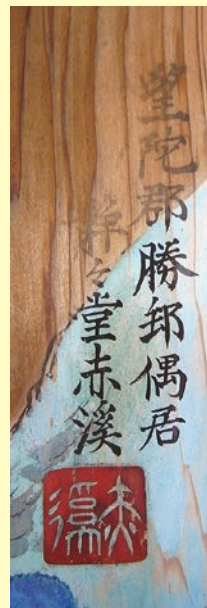
～コラム～

絵師 赤溪の描いた絵馬

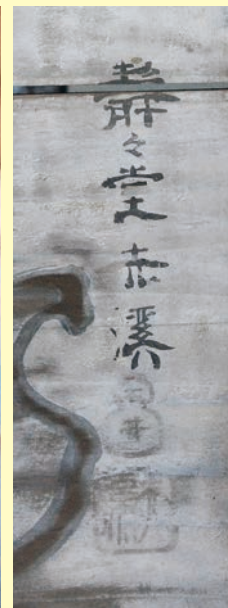
赤溪は、望陀郡岩井村他3村から役所に提出した、「農具絵図」を浄書した絵師であることが原家所蔵「役用日誌簿」からわかっています。この赤溪が描いた奉納絵馬は、現在までに袖ヶ浦市内のほか市原市、長南町など計8点確認されています。署名には、「望陀郡勝邨偶居」などとかかれたものもあり、勝村出身又は、一時勝村に住んでいたと考えられます。本名や誰に師事したのかなどその詳細は不明ですが、今後市内外の調査を進めることにより、ナゾの絵師赤溪の実像に迫ることが出来るでしょう。



文久2年  
1862



明治3年  
1870



明治5年  
1872



明治6年  
1873